第 15 号　　2011 年 10 月 1 日発行

ゆっこら通信

発　行：社会福祉法人**ゆっこら**
龍ケ崎市川原代町 3 区 2422-11
Tel:0297-64-1393 Fax:84-6717
http://www1.ocn.ne.jp/~yukkora/

～ 障害者が安心して暮らせる地域社会を目指して ～

障がい者はどこに…

社会福祉法人ゆっこら理事　秦 靖枝
（NPO 法人おおぞら理事）

東日本大震災から 6 ヶ月が経ち、マスコミでは東北各地から復興に向けての活発な動きが報道されています。そして私たちは次第に被災地のことも忘れがちになっています。しかし、震災直後からほとんど牛久の自宅に帰らず、仙台を拠点に東北各地の支援活動を続けている友人からは、まだまだ大変な状況であると連絡が来ています。現在、最も大きな課題は「心のケア」と「コミュニティの再建」とのこと。

短期間ですが、友人の活動に協力すると同時に自分の目で状況を確認し、今後の支援のあり方や地元でやらなければならないことを考えたくて仙台に向かいました。

お盆明けでしたが、新幹線も仙台駅も大混雑。例年以上に故郷に帰る人が多かったのでしょう。仙台駅の周りは「東京と同じだな」と感じるくらいで、震災があったと思えない活況を呈していました。しかし、市役所に行くと 1 階に支援関係の部署や相談コーナーが並び、ホールには神戸を中心に全国各地からの応援メッセージや世界各国からの支援の絵や手紙、折鶴などが並んでいました。これを見た市民はきっと励まされただろうと思いましたし、具体的に形にして届けることが大切だと改めて思いました。

翌日は牛久市も支援してきた亘理町に入りました。まず、地域住民で町内に「たまり場」を提供している主婦の呼びかけで集まった仮設の住人や高校生（2 人）も含めて、上手にコミュニケーションをとるためのワークショップを行いました。今後長期にわたって仮設住宅を訪問し、心のケアに関わって欲しいからです。その後カウンセリングの経験者を中心に、10 人程で仮設住宅を廻りました。「今でも突然ワーッと波の音が迫ってくるのです。頭がおかしくなったみたい…」という住民の声に胸がつまりました。でも大半の方は「大丈夫ですよ。暑いのにご苦労様ですね」と労いの声。本当に辛抱強い人達だと思いました。

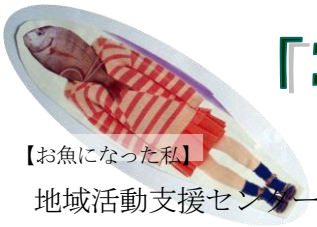
確かに暑い！仮設の床が低いので余計にアスファルトと砂利の熱気が上がってくるのです。

100 世帯ほどの仮設住宅で、やはり高齢者の多さが目につきました。しかし、障がい者の姿が見えません。地域に密着して支援活動をしている人たちに聞いても、誰も把握していません。先の「たまり場」を主催している人も「精神の作業所が壊れたのでここに来ても良いですか？と言われたので『1 人なら良いですよ』と言ったけど 1 日で来なくなったわ」で終りでした。その後もあちこちで聞いてみましたが、「多分ご家族で看ているのでしょうね…」と言った感じで熱心に活動している人たちからも聞き出すことができませんでした。新聞報道によれば神戸で障がい者の支援をしてきた団体が市役所に掛け合っても「個人情報の保護」といって教えてくれず、障がい者の把握が出来なくて困っているとの事でした。

最後の日は岩手県の遠野市、陸前高田市、気仙沼港などをまわりました。何人かの方々からお話を聞くことが出来ましたが、ここでも障がい者についての情報は大きな施設のこと以外は聞けませんでした。心優しく、デリケートな人達だけに、本人もご家族も支援者も、みんなどんなにつらい思いをしていることだろうと私まで苦しくなりました。やはり日ごろから地域の人たちと関係を作っていくことが大切だと思い、どうやって実現していけば良いのだろうかと大きな宿題を背負って帰ってきました。

【亘理町で行なわれたワークショップの様子】

「コラージュ」楽しんでいます！


【お魚になった私】

ふれんず生活指導員　高橋 純

地域活動支援センターふれんずでは、創作活動の一つとして月に２回程度「コラージュ」を楽しんでいます。「コラージュ」は「貼りつけること」を意味するフランス語です。絵画に写真や新聞紙など既製のものを貼りこむもので、ピカソやマチス等が利用した芸術の表現技法ですが、芸術療法としても研究され使われている表現方法です。

「コラージュ」にはいろいろな方法がありますが、私たちが行っている作業は、様々な種類の雑誌やパンフレットの中から、自分が気にいった写真やイラストや文字を切り抜いて、Ａ４程度の台紙に張り付けて作品を作るものです。作業は簡単ですが、選んだ写真の内容、切り方、貼り方、構成の仕方それぞれが違っていて、その人らしい個性的な作品が出来上がります。出来上がったら、その作品に題名をつけてもらいます。なんでこの写真を選んでこの作品を作ったのか、作品を見て視覚化された自分の心の中を感じてみたり、仲間同士で鑑賞しあったり、連続して参加している方は、作品を並べてあの時あんなことを思って作ったなどと思い返してみるのも楽しみだと思います。

最近は、複数の人達で協力して大きな一枚の作品を作ってみました。相談して題名を決め、それぞれに切りぬいた後、協力して一つ作品に作り上げました。楽しんで作り上げて行くなかで作品に現れた自分の心の在り方を確認していければ良いと思います。

【ランデブー】

【夏 休 み】

【飛び出せわんさか！】

【屋形船の秋】

スペース なかま

今の楽しみ

僕は学園並木から十六年前に佐貫に引越してきました。当時は働きながら学校に通っていました。その学校では自分が誰よりも優れていないといけない競争の社会でした。そして職場での人間関係が悪化して仕事を続けることができなくなり…、仕事と学校を辞めることになり…、夢の仕事を奪われたことで精神的に不安定になり、病気（統合失調症）が現在も続いています。

引きこもる事が無いように病院のデイケアに通いましたが、物足りなさを感じ、ゆうあいワークインに自分から足を運び、なにか『自分がここに居てもいい』と感じる居場所を見つけました。通い始めの頃は強い薬を飲んでいたので、作業をしながらいつの間にか夢の中に…眠ってしまった（笑）こともあります。今では自分と同じ病気の人達と「僕はこんなことを思っているんですよ」とみんなに話したり、みんなから調子の悪いときの乗り切り方を教えてもらったりして、少しずつ偏った考え方がなくなり、いろんな人達と良い関係を持つことで成長しました。

今の僕の趣味は音楽ライブを見に行くことです。特技は中国語で、龍ヶ崎コミュニティーハウスの中国語会話教室に通って勉強しています。いずれ中国か台湾で仕事をしたいと思っています。聞き取りは苦手ですが（笑）自分が言いたい中国語はいくらか話せます。あとはワープロで小説を書いたりしています。一冊の本にできるほど書いたりしています。内容は？いつもいきあたりばったりで書いているので楽しいかどうかわかりませんが（笑）。

こんな僕ですが、ゆうあいワークインに通い楽しんでいます。これからもよろしくお願いいたします。

ゆうあいワークインＨ・Ｎ

今年初収穫のブルーベリー

ともだち村の夏

…多くの利用者の皆さんとともに

（就労継続支援Ｂ型ともだち村施設長　松橋 和枝）

収穫した野菜

ともだち村は連日の猛暑の中、板橋本部で養鶏・食品・畑の３事業を、谷田部分室ではクッキーとパンの事業をそれぞれが頑張っています。

養鶏では平飼のにわとりもお世話をする利用者もこの夏の暑さの中、雨が降っても休むことなく頑張っています(にわとりはちょっと夏バテ気味ですが…)。おからと給食の残りものやキャベツ、大根葉などの野菜類をぬかや専用の飼料と混ぜて餌を作るのも、鶏舎に餌を運ぶのも重労働。

そして、たまごの扱いには細心の注意を払いながら産卵箱から集め、洗ってパック詰めをして「ゆっこら自然卵」の出来上がり。待っているお客さんのもとに届けています。

洗ったたまごを丁寧に拭きます。

にわとりの朝食です。

食品事業では毎日の給食で多くのメンバーが仕事をしています。給食の調理補助をする人、返ってきた食器類の洗浄をする人、ユニホームや布巾を干したりたたんだりする人、3 事業所に配送をする人等々。また、燻製たまごやたまごを使ったお菓子などの試作等にも取り組んでいます。

直売所納品中

給食の人気メニュー

ユニフォームをきちんとたたむのも大事な仕事

畑では連日の猛暑にもめげず 1 日平均 5～6 人のメンバーが草刈りや野菜の収穫に励んでいます。収穫した野菜は給食の食材に。昨年植えたブルーベリーは 7 月 20 日に初収穫。農産物直売所で生食用として販売し、残りはジャムに加工する予定です。

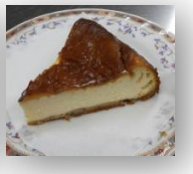
畑の収穫作業

ブルーベリーの選別作業

谷田部分室ではクッキーに加えておからパンと新たに夏野菜のピザを開発。利用者も新しい仕事に挑戦。おからあんパンのあん包みも初めは苦労していましたが、上手になりました。パンとピザは隣接している谷田部老人福祉センターに訪問して販売。売れ行きも上々です。

ともだち村で作った商品はこれまでの販売先に加えて老人福祉センター、新たに利根町とつくばみらい市の農産物直売所でも販売を始め、リピーターもつき始めています。

おからパン



チーズケーキ

また、イベントなどでひよこと触れ合ってもらい、ともだち村の商品を知っていただく企画も春から始めました。

秋のイベントにもひよことともに参加する予定です。

ひよこと触れ合う小学生たち

利用者の皆さんが一生懸命に作った商品をさらに多くの方に知ってもらい、お買いあげいただけるように、そして利用者の皆さんの工賃をあげていけるように工夫していきたいと考えています。

グループホーム・ケアホーム　古城の家（仮称）に関するお知らせ

～龍ヶ崎市内に来年 1 月オープンの予定、ただいま入居希望者を募集しています～

1 地域社会における自立を支援します

障害者の皆さんが、地域社会における自立を図るため、生活の場を提供し日常生活の支援を行っていきます。

2 古城の家（仮称）施設概要

定員：グループホーム 6 名、ケアホーム 6 名(全個室)
設備：入居者居住棟－1 棟
　1Ｆ－ケアホーム居室　　（個室 6 部屋）
　2Ｆ－グループホーム居室（個室 6 部屋）
　　ショートスティ用居室（個室 1 部屋）
　共有スペース－（厨房・食堂・談話室・浴室・トイレ・洗面室）事務室・相談室・宿直室等

3 利用できる方

原則として精神障害者その他の障害者手帳をお持ちの方で下記に該当する方

1. 家庭環境、住宅事情等で住宅の確保が困難な方、又は積極的に自立を目指す方
2. ある程度の自活能力があり、共同生活が可能な方
3. 就労、就労支援事業、地域活動支援センター、デイケア等に通所される方
4. 精神科通院診療を継続している方
5. 申し込みを本人の意志でされる方

4 費　　用

1.家賃（3 万円）＊特定障害者特別給付費支給対象者の場合、1 万円の補助があります。
2.食　費（2 万円）
3.水道光熱費（実費）
4.共通の日用雑貨の費用（実費）

5 ショートスティ

希望者は原則として入居前にショートスティを利用していただきます（1 回 1,000 円食事付き）

6 問い合わせ先

グループホーム・ケアホーム
古城の家(仮称)準備室
ゆっこら本部
TEL,0297-64-1393

※ 利用に際しては、市町村の障害福祉サービス受給者証の交付を受ける必要があります。

ふれあいコンサートに出店♪

今年も、精神保健ボランティア「さくらの会」主催による「第四回ふれあいコンサート」が六月十九日に稲敷市あずま生涯学習センターにて開催されました。プロのバイオリン奏者白上冴さん他の素晴らしい生演奏に地域の障害者のみなさんが多数招待された会場の外では、ゆっこらの就労継続支援Ｂ型の三事業所が並んでお店を出しました。

ほっとピア工房の手芸品、ともだち村のくんせい卵、花農場の花苗…、各事業所の垣根を越えて、看板息子・娘たちが和気あいあいと協力しながら自信の生産品を販売しました。美しい音色の聞こえるコンサート会場の外でも、メンバー同士のハーモニーは抜群。さながら、ふれあい出店。これを機会に、もっと大勢のお客様を対象としたお祭り等でも、三事業所合同で出店できるかも…。期待に胸がわくわくした楽しいひと時でした。

花農場指導員　加瀬由子

≪7～9 月の主なイベント≫

★7/8 ゆうあいワークイン 地域探索　龍ケ崎歴史民俗資料館にてヒロシマ被爆資料展を見たあと、カガミクリスタルを見学してきました。

★7/22 わかば 恒例の流しそうめん大会 18 名の参加、涼しさ一杯のイベントでした。

★8/12 わかば 調理でピザ作り 今回は夏野菜の山盛りピザ、美味しくできました。 20 名が参加。

★8/16 ふれんず　暑いですが読書の秋…,　この日は図書館へ行って勉強しました。

★9/8 ゆうあいワークイン 外食会　今回は中華料理を食べに…。 値段のわりにボリューム満点で、味も良かったです。

★9/12 ふれんず つくばエキスポセンターへ見学に　見て、触って、楽しく宇宙の謎を学んできました。

★9/29 花農場 佐倉市の国立歴史民俗博物館と川村記念美術館へ日帰り旅行に行ってきました。秋晴れの一日、仕事を離れ楽しい時を過ごしました。

社会福祉法人ゆっこらの事業所

★ 地域活動支援センター

- 龍ケ崎地域活動支援センター "ゆうあいワークイン"　TEL＆FAX 0297-64-1335
- つくば地域活動支援センター "わかば"　TEL＆FAX 029-836-8544
- つくばみらい地域活動支援センター "ふれんず"　TEL＆FAX 0297-58-0466

★ 就労継続支援事業Ｂ型

- ともだち村
  1) つくばみらい市　TEL＆FAX 0297-58-5201
  2) つくば市　TEL＆FAX 029-836-8544
- 花農場（龍ケ崎市）　TEL＆FAX 0297-84-6717
- 就労・生活支援センター ほっとピア工房（牛久市）TEL＆FAX 029-878-2717

★ グループホーム・ケアホーム

- ボランペの家　TEL＆FAX 0297-57-0756